

第2回伊達市教育振興基本計画策定委員会
(社会教育部会)
会 議 録

伊 達 市 教 育 委 員 会

審 議 会 会 議 録

会議名称	伊達市教育振興基本計画策定委員会 社会教育部会（第2回）		
議 題	議事 ① 「歴史・文化芸術」に関する現状と課題について ② 「歴史・文化芸術」に関する事業実績等について ③ 「歴史・文化芸術」に関する意見交換		
開催日時	平成29年7月26日（月） 18：30～20：30		
場 所	市民活動センター 多目的室2・3		
出席委員	部会長 他9名		
	所管部課名	教育部生涯学習課	
公 開 非 公 開 の 別	<input checked="" type="checkbox"/> 公 開	傍聴者の人数	2名
	<input type="checkbox"/> 非公開	非公開の理由	
《審議会の概要》 1. 開会（事務局） 2. 部会長挨拶 3. 議題 （1）「歴史・文化芸術」に関する現状と課題について （2）「歴史・文化芸術」に関する事業実績等について （3）「歴史・文化芸術」に関する意見交換 （4）その他 【資料に基づき事務局より説明】 【質疑・意見交換】 5. 閉会 ----- 《会議録詳細》 1. 開会の挨拶 ●事務局 2. 部会長挨拶 ●部会長 3. 議題 （1）「歴史・文化芸術」に関する現状と課題について ●事務局 それでは、歴史・文化芸術分野の現状と課題についてご説明させていただきます。			

前回第1回の社会教育部会の時も同様に説明させていただきましたが、現計画にも計画策定時、約10年前になりますが、各項目ごとの現状と課題が記載されておりますが、ほぼ10年経ちましたので、今現在の現状と課題とは状況が変わってきております。もちろん今現在に通じる課題もございますが、今回は、前回と違って、少し切り口を変えて、説明させていただきたいと思っております。

また、文化、芸術、歴史（文化財）に係る事業については、複数の要素を持ったものも多く、分類が単純にはいきませんが、ジャンルがまたがっているというのがございますが、その事業の予算科目や担当係を考慮し、分類させていただいておりますのでご了解いただきたいと思います。

まずは、歴史関係です。

本市には太古の昔縄文からアイヌ、亶理伊達家の武家文化、開拓期の古民具まで、未来に残さなければならない歴史・文化財がたくさん残されています。

残された貴重な文化財を大切に次の世代に引き継ぐための取り組みや、この地域の特色である歴史を正しく理解し、誇りに思えるようなひとづくりやまちづくりを進める必要があると強く感じております。

まずは縄文文化についてです。

本市には北黄金貝塚を始めとする縄文遺跡が多数存在します。調査を終えていない遺跡も多数あり、これらについては大学や調査研究機関の研究者等の協力を得て地道に調査や発掘を進めております。

出土品等につきましては、噴火湾文化研究所内に整備を進めております埋蔵文化財センターで整理、研究、保管を行っております。

北黄金貝塚では出土した土器、骨角器等のほか、水場遺構や復元した住居等を展示しており、体験型学習施設として修学旅行生を中心に多くの方々に訪れていただいております。

なお、北黄金貝塚は、北海道・北東北の縄文遺跡群の構成資産の一つとして世界遺産を目指しており、遺跡の価値や重要性を広く知っていただくため縄文まつりなどのイベントを通じたPRも行っております。

次にアイヌ文化についてです。

本市にはアイヌ民族に関するものも多数残っており、特に有珠地区においては、遺跡も多く、今年度も発掘調査を行う予定でございます。

史料の一部は、開拓記念館や有珠善光寺の宝物館などで展示、保管を行っており、また、出土した古人骨につきましては、縄文時代のものも含めまして、噴火湾文化研究所で特に丁寧に保管させていただいております。

また、北海道アイヌ協会が開催するアイヌ民族文化祭の開催経費の一部を毎年度負担しているところでございます。

次に亶理伊達家の武家文化財等についてです。

武家文化財につきましても、伊達家からの寄贈品などの多くの史料が残されており、開拓記念館で展示を行っております。また、開拓期の住居や古民具なども残されており、先人の苦労を今に伝えているところでございます。

特に先人の開拓期の苦労につきましては、子供たちによく知っていただいた上で、その偉大さを実感してもらいたいと考えており、平成28年度から3年間かけて、わかりやすい開拓期の歴史本、伊達開拓物語という名前にするつもりですが、こちらの編集・編纂を進めているところでございます。

また、移住の際に一緒に持ち込んだ伝統文化の保存にも努めており、関内地区で引き継がれている仙台神楽について、その保存継承事業を財政的に支援しております。

ハード面でございますが、現在3つの施設を運営しております。

北黄金貝塚、噴火湾文化研究所、開拓記念館、こちらについては、すべて直営での運営となっております。

ただいま現状でございましたが、次は課題についてでございます。

まずは、どの時代の文化財についても言えることですが、展示・保管環境の整備が急務だということでございます。

特に開拓記念館はすでにほぼ築60年を迎え、狭隘化もさることながら、老朽化が

著しく、史料の保管・展示に苦慮しているところでございます。
現在、だて歴史の杜公園の一角に「だて歴史文化ミュージアム」という博物館を平成30年の秋以降にオープン予定で建設を進めております。
このミュージアムの2階部分がこれまでの開拓記念館に相当する部分でございます。収蔵庫も備えることとしております。
また、噴火湾文化研究所内の埋蔵文化財センター改修も並行して進めており、これらが完成しますと、これまでとは比べものにならないほど保存、展示の環境は改善されるものと思っております。
また、ミュージアムの1階には多目的で使える少し大き目の部屋も作る予定であり、ここを活用した特別展示なども企画することといたしております。
私共としては、ここをうまく活用したり、2階の展示もこまめに入れ替えるなどし、来るたびに違うものを見ることができるよう、リピーターを呼べるような施設にしたいと考えており、ここの工夫が一つの課題だというふうに思っております。
続きまして、文化芸術分野についてです。
文化芸術の内、文化振興につきましては、文化活動の活性化のため、日頃の文化活動の成果発表の場として、市民文化祭や市民サークルまつりを毎年度開催しております。
また、市民文化活動の中心的役割を担っている伊達市文化協会に対し、その活動を奨励するため補助金を毎年度交付しております。
芸術振興につきましては、市民に質の高い芸術に触れていただくとともに、特に若い世代には創造性や感性を育むための事業を数多く実施しております。
質の高い芸術鑑賞につきましては、伊達メセナ協会や総合企画FMAなどによる演劇、音楽などの公演に対し、財政的支援を行っております。
また、小中学生には子供の時から本物の芸術に触れていただくため、巡回小劇場という事業を行っており、カルチャーセンターの大ホールで、毎年度、演劇、ミュージカル、音楽演奏、伝統芸能など本物の芸術を鑑賞する機会を設けているところでございます。
また、本物の芸術を鑑賞するだけでなく、学ぶことができる事業として、アートビレッジ事業を実施しております。
10年先、20年先に伊達、北海道、日本、もとより、世界で活躍できる人間を輩出できることを目指し、美術や音楽の世界で活躍する一流の講師からハイレベルな指導を直接受ける事業でございまして、多くの方がここで学んでおります。
そのほか、戦後GHQの印刷、出版担当官として東京に赴任したフランク・シャーマン、この方が収集した多くの美術品等の寄託を受けており、アートビレッジ文化館で保管と一部公開を行っております。
ハード面でございますが、現在2つの施設を運営しております。
一つ目は、アートビレッジ文化館、先ほど歴史文化でございました、噴火湾文化研究所と同じ建物でございますが、一応、研究所の部分と部分で線引きされてございまして、建物全体では2枚看板というかたちになりますが、研究所の一部がアートビレッジ文化館ということで、管理はNPO法人噴火湾アートビレッジに委託をしております。
2つ目は、当市にご縁がありました宮尾登美子先生の功績と宮尾文学を広く理解していただくとともに文学に親しんでいただくための施設である宮尾登美子文学記念館でございまして、こちらにつきましては、直営で運営をしております。
次に文化振興の分野の課題でございます。
文化振興につきましては、文化祭などに参加される団体数が少しずつ減りつつあるということが課題となっております。恐らくですが、団体の構成員が高齢化などにより減少しているのではないかと思います。団体の構成員の高齢化ということにつきましては、文化団体に限ったことではなく、あらゆるコミュニティについて言えることで、趣味の多様化や、もとより自由がいいというか束縛を嫌うような人の増加傾向などもあり、団体として活動するだけの人が非常に集まりにくいという状況となっております。この状況をどう克服するかが一つの課題となっ

てございます。

芸術文化の振興につきましては、巡回小劇場やメセナ協会が企画する演劇、コンサートなどは比較的安い金額で良いものが観れる、聴けるなど多くの方々から好評をいただいているところでございます。

アートビレッジ事業につきましては、ハイレベルな指導を行っておりますが、受講者数がそれほど多いという状況ではなく、また、ここから輩出された方の活躍がなかなか目に見えるような状況で伝わって来ておらず、今後に期待しているところでございます。

寄託や寄贈された多くの美術品等につきましては、保管はしておりますが、場所や費用の問題などもあり、公開するなど活用がそれほど進んでおりません。

先ほど歴史分野で出てまいりました「だて歴史文化ミュージアム」が開館した後は、1階のホールなどで、これらを公開する機会を設けていきたいというふうに考えてございます。

次に芸術部分のハードの部分の課題でございます。

噴火湾文化研究所、アートビレッジ文化館、共通しておりますが、つきましては、元々学校だった施設でございます、建設後30年以上経過していることから、非常に痛みが進んでいます。

今後、長中期的に計画を立て、改修を行っていく必要があると考えています。

宮尾登美子文学記念館についてでございますが、入館者数がそれほど多くない状態が続いており、宮尾先生がお亡くなりになった今、今後大きく入館者数が回復することは難しい状況と考えております。

宮尾登美子文学記念館の今後の方向性やあり方については、現在検討をしているところでございますが、思い切った方向性の転換をすべきというふうに考えております。

以上「歴史・文化芸術」分野における主だった実情と課題でございます。

以上です。

■ 部会長

ありがとうございます。

今、歴史・文化芸術に関する現状、そして、いろいろ課題がたくさんあるんだという説明を受けました。

関連しますので(2)にかかわります歴史・文化芸術に関する事業実績について、引き続きお願いします。

● 事務局

よろしく申し上げます。

それでは、事業の説明ですが、上から、「文化財防火デー」これはですね。重要文化財を守るために、毎年行っているもので、善光寺・旧三戸部家住宅で行っています。本来これは、全国的に1月26日というふうに決まっていますが、これは、法隆寺の火災があった日ということですが、伊達では冬は寒いということで、11月に毎年やることにしております。

次に、「新縄文ロビー講座」、これは、北黄金貝塚で最新の情報を、市民の人たちにレクチャーするというものです。

今までは、毎月1回、1年間やっていましたが、最近は4回しております。

「縄文の森づくり」、これは、北黄金貝塚がオープンする前から、市民のボランティアの方たちと一っしょに縄文時代にあった森を復元しようということで、行っているものです。

次に、「縄文キャンプ」、これは、堅穴住居が史跡公園の中にありますので、この中に宿泊して、縄文時代の体験をするという人気イベントです。

そして、「だて縄文噴火まつり」ですが、これは、20年前に縄文まつりを行って、少しでも北黄金貝塚をPRしたいという市民の方たちの有志の想いで、出来上がったもので、今年が20回目です。これは、縄文文化を学びながら、楽しむ。楽しみながら学ぶというイベントとして実施しております。

「北黄金貝塚特別展」ですが、いろんな博物館等から、資料を借りてきて特別展を実施しているのですが、昨年に関しては、「おかしなドッキー展」といって、土器片の形をしたクッキーを作って、それを展示する、実物の土器と食べられるクッキーとを並べて展示するというを実施しました。

それから、「緑丘高校縄文学習」ですが、緑丘高校は縄文時代の遺跡の上に立って、あそこの校舎を造る時に、遺跡の発掘をしたわけですが、そういうことを子供たちに知っていただいて、さらには北黄金貝塚ですとか、伊達市の遺跡のことを身近に感じてもらうというようなことで、もう10年続けている学習です。

次に「考古学カフェ2016」ですが、これは、北海道内の縄文遺跡を活かして街づくりをしたいという団体が27市町あります。その事務局を伊達市が担っているわけですが、道内にある縄文遺跡をPRするために、札幌駅の地下歩行空間、チ・カ・ホで展示やデモンストレーションのイベントをやっております。1万人近くですね、人が通るところですので、かなりの集客がありまして、PRとしては効果があると思っています。

次に、「端午の節句展」ですが、伊達市開拓記念館の中に迎賓館という有形文化財があります。そこで、互理伊達家の家臣団の甲冑を展示して、それから子供たちには、レプリカ甲冑の着付けを行って、端午の節句を祝っているイベントを行っております。

同じく「七夕まつり」もですね、迎賓館で行うイベントで昨年は8月6日に武者まつりと併せて行っております。あの和風の雰囲気の中でお抹茶をいただく、あるいは、コーヒー、クッキーをいただくというようなイベントです。

それから、「ひな祭り」ですけども、これは、3月3日に開拓記念館を無料開放して、ひな人形を鑑賞していただくというものです。

「スタートアップ」展示としましては、これは、新しいミュージアムを造る際に、オープン前からどういうものが展示されて、どういうふうに市民の方たちが利用するのかということを知ってもらうためのイベントとして、スタートアップ展示、それからスタートアップ講演会を行っております。昨年の展示はですね洛中洛外図屏風という伊達家が持っていた、一般に公開するととても貴重なもので、わずか、3日～4日くらいしか展示できないものですが、多くの人に来てもらおうという試みです。それから、「スタートアップ講演会」ですが、これは、元東北大学の教授の先生という方が、伊達市にかなりの寄贈していただきました。それを記念して講演をしていただいたものです。

それから「学術連携講演会」ですが、これは、東北大学の東北アジア研究センターという研究所とそれと伊達市噴火湾文化研究所が連携協定ということから、毎年、交互に、伊達市と仙台市で講演会を行っているものです。昨年は、東北大学から先生がお二人来て、伊達に関係することなど、講演していただきました。

それから「若生貝塚発掘調査」ですが、これは、科学研究費事業といまして、国が100%研究費をだしてくれる事業で、これで伊達市の若生貝塚の発掘調査を行いました。この時は、小規模な発掘だったので、わずかな人数しか参加がありませんでしたが、前年度は、多くの人たちに見学に来ていただきましたし、それから多くの方にも参加していただいたものです。

それから、「動物考古学セミナー」というものは、貝塚を掘りますと、動物の骨などがたくさんでてきます。それを分類するという動物考古学という分野があるのですが、その入門コースで、学生、大学院生、それから一般市民の人たちにも興味のある方には学んでもらおうということで、昨年からは始めたものです。

次に「科研費成果報告会」、これは、若生貝塚とは別に、向有珠町のカムイタブコ下遺跡というアイヌ民族の遺跡があるのですが、その発掘調査の報告を一般市民にしたものです。

最後に「柿渋プロジェクト」ですが、これは市役所通り商店街の皆様といっしょに、街路樹の柿をとって、塗料や染料となる柿渋を作るという体験です。これも、5年、6年続いておまして、大分質のいい柿渋が出来るようになりました。最近、その柿渋を使って、商品開発をしたいという声が増えていまして、実際に

最近は、登別市のアイヌ協会からアイヌ模様をつけた一閑張りを作りたいということで、柿渋を使わせて下さいという申込みもありました。少しずつ実際に利用されるのかなと思っています。

以上です。

(3) 「文化芸術」に関する事業実績等について

●事務局

続きまして、文化芸術部門につきまして、報告いたします。よろしくお願ひいたします。

宮尾登美子文学記念館で小さな朗読会を 38 回から 41 回の 4 回ほど開催いたしました。1 回目はですね、6 月 25 日に開催いたしまして、宮尾先生の「女のあしおと」随筆集の中から朗読のほうを行っております。こちらの朗読会ですが、同じ会の朗読の方が実施していただいております。2 回目は、8 月に同じく「女のあしおと」の中から後編ということで同じく朗読会を開催しております。3 回目は 10 月に開催しております、この時は、宮尾先生が、着物がとても好きだったということでしたので、着物に関する短編随筆 5 編について朗読会を開催しております。4 回目が、11 月に開催しております、この時は、夫婦と母子に関する短編随筆について、朗読を行っております。この会につきましては、伊達市民吹奏楽団 2 名によるミニ演奏会も行っております、朗読会と音楽会というかたちで開催しております。こちらはすべて宮尾登美子文学記念館で開催しております。

続きまして、市民サークル祭りというものを開催しております。昨年ですね、28 年 9 月 2 日から 4 日までの 3 日間、金、土、日なのですが、市内で活動しております手芸や工芸、書道などのサークルの方が作品を展示しております。参加団体が 14 団体、3 日間で来場者が 693 名ということで、こちらは、大ホールで行っている事業です。

続きまして、市民総合文化祭、もうかなり長い期間、開催しているのですが、昨年も 10 月から 11 月の 2 ヶ月間にわたりまして、参加団体が入れ替わり立ち替わり、カルチャーセンターの中で、日頃行っている活動などの成果の発表ということで、行っております。こちら、生け花、茶会、演奏会などなど、2 ヶ月にわたって、カルチャーセンターを中心に繰り広げられている市民総合文化祭ということになっております。

続きまして、巡回小劇場といいまして、市では、市内の小学生、中学生につきまして、毎年、舞台、劇場を鑑賞してもらう形で授業を組んでおります。演劇や音楽、古典芸能などを対象にしまして、それぞれ、小学生は低学年と高学年それぞれと中学生ということで、3 つに分かれて授業を行っております。昨年は、中学生につきましては、「クラシックってすばらしい」ということで、クラシック、バイオリンとピアニストの演奏会を行っております。小学生の低学年につきましては、(有)パフ・ファミリーオフィスのところの「イキイキわくわく音楽祭」ということで、もうちょっとくだけた感じの楽しい音楽祭ということで、体が動くような感じの音楽祭を行っております。この時は、舞台の上に子供たちまで上がって、楽しい感じで、舞台上で演奏を行っていくことになりました。小学生の高学年につきましては、劇団四季の「エルコスの祈り」というミュージカルを行っております。通常では、劇団四季は、こちらの方で、なかなか呼べないんですが、劇団四季で行っております、心の劇場といいますが、社会貢献活動、そちらに昨年該当しまして、劇団四季のかなり質の高いものを観ることができました。

続きまして、「ザ・フルーツ」という公演、演劇を行っております。こちらは、宝くじ文化公演で、毎年、開催するわけではないのですが、市の方でこういう事業を行いたいということで、応募して、採択された事業となっております。400 万円の公演の全額が自治総合センターというところが補助しまして、市の負担は公演料以外の負担のみと、チケット売上の 50%を自治総合センターに納めるということで、こちら宝くじの事業となっております。こちらはですね、昨年行いまして、456 名の観劇の方がいらっしました。

続きまして、西いぶり定住自立圏文化公演事業と申しまして、西胆振の市と町で

お金を出し合って、こういった演劇活動、文化活動の招聘を行っております。各市から100万ずつ出しまして、300万円での元手で事業を行って、登別市と室蘭市と伊達市で、毎年順番で、場所を移動しながら、それぞれ考えてやっております。昨年は人形浄瑠璃「文楽」ということで、登別市のほうで開催しております。昼の部と夜ということで行っております、479名の方が観劇にいらっしゃっております。

続きまして、絵画教室「野田・永山」塾につきましては、野田弘志画伯、永山優子先生による、小学生、中学生、高校生、大人を対象とした絵画指導を通年で実施しております。こちら40名ほどが参加しております。

リアリズム絵画セミナーにつきましても、同じく芸術監督の野田先生、永山先生、またですね、外部からの講師を招聘しまして、リアリズム絵画を志す人を対象としまして、記載した通りの内容で、昨年はセミナーを開催しております。昨年は絵画の制作そのもの等々を行っていて、こちら22名の参加となっております。

続きまして、伊達音楽アカデミーこちらですね、ピアニスト岩崎淑氏を講師に迎えまして、ピアノ独奏、他の楽器とのアンサンブルに関する方への指導レッスンを一般公開で行っている事業となっております。カルチャーセンターの大ホールで行いまして、岩崎淑先生によるいわゆる公開レッスンという形で行っていて、昨年は4人プラス1組で行っております。

最後に、ヨーロッパ300年を奏でる室内楽の夕べということで同じく岩崎淑先生が中心となりまして、昨年は、ピアノとヴァイオリンとヴィオラの3人によるコンサートを8月21日に行っております。233名ほどの観劇者がおりました。

文化芸術に関する社会教育事業実績については以上となります。

以上です。

□部会長

ありがとうございました。

今、聞いていただいた通り範囲が広いので、28年度の事業実績の資料の中の最初、歴史分野の意見や質問をいただいて、そのあと文化芸術分野の方に移行していきたいと思っておりますけども、よろしいでしょうか。

それでは、今、説明を受けましたけれども、歴史分野にかかわるところで、質問だとか意見等がありましたら、お願いします。

【質疑・意見交換】

□委員

説明の中で、文化ミュージアムは、30年の秋頃ということ、現在ある開拓記念館を新しくすることなんです、その開館に向けて現在市ではどういうふうな取り組みを考えているかということと、ミュージアムができることによって、現在の開拓記念館が使命を終えることになるのですが、その記念館についてどうするか、そのへんを聞きたいと思っております。

●事務局

まず、ミュージアムの開館時期ですが、30年秋以降を予定しております。いろいろ調整している段階でまだ2期工事の発注がなされておられません。2期工事が、実は本年度ですべて完成させる予定だったんですが、国の補助の関係などで、30年に一部工事がずれこむので、3ヶ月ないしは半年くらい遅れる見込みです。取組状況ですが、要項、運用、設置条例、こういうものについて、事務を進めております。条例等については、今年度中に議会に提出することを考えております。もちろん、オープン時期などもはっきりした時点で、集客のために、PRすることを考えております。それから、記念館についてですが、役目が終わった時点で、補助の関係がございまして、補助で解体することになると思っております。記念館については、国の史跡をめざしてまして、史跡ということであれば、当時のものであればいいんですが、現代的なものはなるべく排除ということになりますので、壊して、更地にすることを考えております。

■部会長

委員よかったですか。
関連してもしあれば。

□委員

ミュージアムがちょっと遅れるということですが、こちらの方は検討委員会で検討されると思いますが、ミュージアムの中に収蔵庫ができると思うので、こちらの方は、主に、今、開拓記念館の中にあるようなものを収蔵でしょうが、もう一つ噴火湾文化研究所の方に収蔵庫がある、二つの建物がある、アートビレッジ文化館ですか、収蔵庫というのは噴火湾文化研究所内にあるということですね。この収蔵庫は、ほとんど市民に知られていないと思うんですけど、これをどういうふうを活用するのか、発掘で得たいろんな遺物を収蔵するのはわかるにしても、ただあそこに眠らせるだけが。そのへんの説明をお願いします。

●事務局

収蔵庫ですが、埋蔵文化財センターっていういい方になりますが、ご要望があればお見せすることはできますが、いま現在、文化財系の職員は常駐しておりませんので、突然こられてもお見せできないのですが、見たいという方は、ミュージアムの方で対応できると思います。それ以上のものとなりましたら、あらかじめご連絡をいただいた上で研究所のほうでお見せすることは可能です。ただ、埋蔵文化財センターは、もちろん公開いたしますが、一番大きな目的はやはりきちんと研究して、きちんと保存することだと思っていますので、そちらの方は、しっかりやっていきたいと思っています。

□委員

せっかく埋蔵文化財センター、センターっていう名称になるのですか、いまもうなってるのですか？

●事務局

図面の最後のページ、入口から行くと、1番奥の方が、1階、2階とも、いわゆる埋蔵文化センターってことで、いわゆるアートビレッジとは一線を引いた部分になります。こちらの方に遺物等を収蔵していることになります。特別保管室ですが、こちらは、先ほどちょっとふれましたが、縄文時代の骨もありますが、アイヌ民族の方の人骨なども保管しておりまして、一般公開はしておりません。

■部会長

これは、提言書の中にも、向こう10年、さらにはということで、有効活用するためには、載せるべきことだと思うのですが、それに対して意見があれば出していただければと思います。

□委員

噴火湾文化研究所は、基本的には他の市民が気楽にいけるところではないかと思っています。ただ、アートビレッジとか、収蔵庫とか、かなりのお金を使ってるということを知ったことがあるんですが、であるならば、もっと市民が気軽に行けるような方策をそれぞれ、行っているいろんなことを勉強できる、体験できる方策を考えて頂きたいと思います。

■部会長

その他ありませんか。

□委員

私実は一度見学させて頂いたことがあるのですが、受付の方に、御親切に案内し

て頂いて見ました。今聞いたらちょうど30年ってことですが、保管の状態のことも聞きました。そこにあの建物があるっていうのが、伊達市民にはほとんど知られていない、行っても閉館してる、そうではなくて、やっぱり常駐の人とか、そういう人をつけて、展示をして、案内してくれる人がいるようにすべきだと思うのですが、人件費とかかかって大変なんでしょうが、こう隔日に公開するとか、まず第一に、市民に知ってもらうようなPRをしていって、こういう建物があるんですよ、今度、ミュージアムができますよ、そこに展示しますよみたいなこともいれていってもいいんじゃないでしょうか。アートビレッジでは、芸術の方をやってるので、あと改修してるって聞いたんですが、今どういう状態なのか教えて下さい。

●事務局

今、国のお金をもらいながら、改修してるのが、先程見てもらった図面で言いますと、この一番向って左側の埋蔵文化センター上下の部分ですが、内装関係ほぼきれいにやり直しをして、リフォームに近いような形で改修をさせていただいております。それ以外につきましては、この図面でいうアートビレッジって書いてある、こちらの部分は、当時、学校だったものがそのまま使っているところが多くて、大アトリエは、何年前に、ものすごくきれいにしたのですが、これ以外の部分は、雨漏りしてるところもあります。あまりひどいところは直したのですが、これから長い間使っていかなければいけない施設なので、計画的に修繕して、長く使っていけるようにしたいと考えております。

■部会長

この建物自体の修理なども必要だし、そこに入れているものの保管それから、よくよその町でもみてると、入れっぱなしで、物置小屋になってるところがけっこう多い、という意味ではやっぱり保管状態が、どんなものがあるんだとか、そういう種別もしていかなければならないし、それから、先程、委員が仰るように、毎日でなくても、曜日を区切るなどして、まずは地元から利用してもらわないと、まずは地元の我々が知らなかったらだめだということと、もう一つは、よく指導者育成とか養成で、ボランティアという考え方もありますが、誰でも無報酬で来てくれるって簡単に考えるよりは、手間賃でもかけて、週何回かやってもらうことが必要ではないかと思えます。

□委員

あと、そういうのを好きな方を募って、ボランティアとして入って頂いて、その説明の交代要員として、一人その責任者がいれば、あとはボランティアの人で、補って、勉強会などをしながら、ボランティアを募っていくのも一つあると思います。

●事務局

埋蔵文化財センターについては、文化財系の職員は常時配置しておりませんし、見せられないものもありますので、お見せするのは現実的には難しいのですが、アートビレッジ文化館について、委託先のNPO法人の人がいまして、芸術部門についてはいつでも見られる状態になっておりますので、そちらをご覧になって頂きたいと思えます。ただ、仰られたように、みなさんそれをご存じないということについては、提言書の方に含めて頂ければよろしいと思えます。

■部会長

よろしいですか。

□委員

今の関連で、確認なのですが、埋蔵文化財センターに関しては基本的には展示というよりは、もう収蔵庫ということですか。

●事務局

研究所ですから、研究するところ、それから遺物であれば整理するところ、そして保管するところっていうのがメインだと思います。もちろん来て頂ければお見せしますが、来て下さいというものはミュージアムだと思います。

□委員

想定外ということですね。

●事務局

そうです。

□委員

歴史の杜の方に新しい博物館ができたときに、先程もふれたかもしれないんですけど、そちらに機能を移すってことは、今のところはないということですか。

●事務局

研究所の機能を移す予定は、ございません。
あれは、あくまで博物館でございます。

□委員

なので、埋蔵文化財センターは、館山の方に残して、そこを修繕しながら、改修しながら使うということですね。

●事務局

はい、そうです。

●委員

はい、わかりました。

■部会長

あと、関連してございませんか。
後ほど、またありましたら補足してください。

□委員

最初の会議の時に今進行中の基本計画の歴史関係にかかわることで、指定文化財の保護対策と計画、これの中で市内の文化財を国の指定史跡にもっていきましょ。その方法として、有珠にあるモシリ遺跡と若生貝塚、それと記念館を考えてますということですが、ただこの三つ一緒にというわけにはいきませんので、優先順位をつけて、史跡などを計画していく必要があると思うのですが、その優先順位についてはどのような考えがあるのですか。

●事務局

現実的に一番近いのは、旧伊達邸であるいわゆる記念館になると思います。既に担当が何回か文化庁の方と打合せをしています。ただ本格的にやる場合は、発掘調査をしなければいけないですし、今、目前に控えているミュージアムの開館準備等もありまして、業務的にできないので、ミュージアムのほうが一息つけばやれると考えております。若生貝塚については、かなり規模が大きいので、国庫補助を入れないと発掘ができません。ただ、国庫補助といたしましても10/10の国庫補助ではなく、地元負担もありますので、財政的な問題も含めまして、簡単には取り組めない状況です。モシリについては、地権者の方から買い取らなければいけないのですが、数字的に折り合わない状況で、しばらくは様子見の状態が続くと考えております。

■部会長

その他ございませんか？

少し進めていいですか？

先程、事務局の方から課題ということで、文化祭関係だとか、文化団体とかで、団体の団員の減少だとか、高齢化だとか、いろんな問題がでてたんですけど、そちらのほうでなにか、それにこだわる必要はないんですけども、さっきの説明でなにかございませんか。

□委員

高齢化、会員が減っているという問題ですが、それはやっぱり各団体が自分で取り組んでもらうしかないんじゃないですか。共通な課題ですので、なにかしら、ここで言えば文化協会ですか？が指導してこの問題に取り組んでいくということではないですか。

■部会長

歴史関係でいうと、ミュージアムのこともありますし、開拓記念館もさっきでましたよね。

さっき、事務局の説明の中でリピーターをどういうふうにか呼んでくるか、またはミュージアムを利用してくれる人をいかに増やすということのアイデアといえますか、それから他の町でやってるんだけどこういうのはいいんじゃないかだとか、何か意見ございませんか。

□委員

集客はなかなか難しい話だと思うので地道にやっていくしかないかなと思います。ただ、新しいミュージアム出来て、今度一階で、特別展等が出来るというのは、個人的には結構期待してまして、やはりそのあたりで、正直今まで設備関係で限界があって出来なかったと思うんですが、それが出来るようになるというところが、やはり期待できるのかな。やはり伊達市の事業ですので、伊達市の歴史を市民に伝えるというのが一次的で、やはりそういう取組が多いのかなと思うんですが、やはり動員であるとか考えると、例えば伊達市民に対して、例えば札幌に行かないと観れないものであるとか、東京に行かなければ観れないものを持ってきてそういった外部の情報、企画展を引っ張ってくるという取組も、今度新しい取組としてあるのかなと思っております。計画等を拝見していると、どちらかというと伊達の魅力を発信するだとかが多いというかそれしかないと思うので、少しは反対の企画も多いにこれからはできるようにするので、多いに楽しみだなと今感じております。

■部会長

ありがとうございます。

□委員

最近、市の主催で、バスで、ツアーみたいな、見学会みたいのをしましたが、毎年、今もしてるんですか。

●事務局

そうですね。毎年やっていますね。

□委員

どこをまわるんですか。

●事務局

前回、市民カレッジでバスを出していて、あと以前は昔宮尾記念館でもやってま

したし、図書館でもやってみました。

□委員

そういうので例えばいろんな施設をこうめぐるとか募集をしたりして。

●事務局

それはミュージアム主催ということですね？

□委員

そうですね。

●事務局

わかりました。

ミュージアムに来てくれるということじゃなくて、ミュージアムで企画してそういうところに行って、連れて行くみたいな。

□委員

関連のある、例えば施設めぐりとか、そういうのどうでしょうか。
今、道外からも移住されてる方もいらっしゃいますしね。

●事務局

わかりました。

そういうことで、提言書にいらしていただいて結構だと思います。

旅行業法という法律がありまして、旅行業者以外のところが、お金をもらって、どこかへ誰かをつれてく、これ違法だという話になってます。ですから、今みたいな話を実現するとなった場合ですね、どこか旅行会社、エージェントを通してやれば問題ないんですが、エージェントを通さないで我々が直接やるのは違法になります。ただそういう意見は意見として伺いたい思っております。

■部会長

その他ございませんか。

□委員

確認なんですけど、黎明観があったと思うんですが、その話が出ていないのは、あれはまったく社会教育とは別個の施設という理解でよろしいですか。

●事務局

黎明観は半分は壊されてなくなりました。昔の物産館という部分はないんですが、奥の刀鍛冶と藍染工房は残っています。で、あの部分については、今造ってる建物と一体化されます。くっ付いた時点で、どちらも、外に出ることなく行き来できる状態になりますので、最終決定ではないですが、ミュージアムの一体の建物ということで、条例上は黎明観というのは無くなるかもしれません。で今は、あそこの管轄は商工観光課になってますが、実務的にはうちの方で引き受けて一体運営するというのを前提に事務の調整を進めているという状況です。

□委員

ありがとうございました。

そういうことであれば、いろいろ楽しみだなと正直思っているんですが、いろいろ管理も大変そうだなというのが正直あったのでいいことだなと思います。

ちょっと動員についてですが、特に刀鍛冶に関しては、結構注目が高いのかと思ってまして、実際今ゲーム等で刀がブームになったりとかもあるので、外国、若い人も増えるコンテンツ材料になるのかなと思いつつ、やっぱりなかなか、どう使っていくのか、難しいだろうなと思ってたので、今後そういう方向で進む

ということであれば、いろいろできるのかなと楽しみにしています。

●事務局

今ちょっと仰られたことですが、特に外国人というのは、どうもその僕らよりもかえって和というもの、忍者とか、刀も大好きだということで、ぜひ見たいというところですが、予約がないとなかなか見れないという状況ですし、今刀鍛冶やられてる方のお歳の問題もありまして、いつまで続けるかっていうのが、現実問題あるのかなと思っています。

□委員

伊達市内に、国の重要文化財、道の指定、市の指定の有形文化財、例えば、迎賓館が市の有形文化財になってますが、例えば市の有形文化財を昇格して、道とか、国の文化財にしたいというようなことはあるでしょうが、有形文化財というのは木造が多くてですね、古い形で残ってますよね、そうすると、例えば、修繕とか補修をする必要がある場合、市の財源もありますが、その市とか道とか国になってくると、その予算とかいうのはすべて市で持たないといけないのか、それとも道とか国で少し出してくれるのですか。

●事務局

まず、市のものは市になりますが、先程、開拓記念館の話をしていたんですが、国の史跡の場合は、国の補助をもらって整備ができます。

■部会長

文化・芸術の方にも入っていきたいと思うのですが、いかがなものでしょう。それぞれ、それこそ、文化協会とか、団体とか、いろんなところの団体の方も見えてますので、関連する部分のところは、発言していただければと思います。

□委員

第1回目の時に配っていただいた資料で、一番後ろに、次期計画案というものを頂いているんですが、第2節「文化芸術振興の人づくりの推進」に赤線が引かれているんですが、その点の説明をお願いします。

●事務局

あくまでも案ということで、まだ最終決定ではないんですが、項目数を少し少なくした方がいいんじゃないかという案で作ったわけですが、ただ、このとおり決まったわけではありません。

□委員

その内容を削除するわけではない。

●事務局

そういう訳ではなく、シンプルにしようという考えであります。

□委員

承知しました。

□委員

先程、埋蔵文化財センターをいろいろ、内装、改修したりしてということで、それを市民が見学できるようなことを提案させていただいたんですが、それと同じように、アートビレッジ文化館についても、気軽に市民が行けるようにという方策を練ってほしいということなんですが、このアートビレッジ文化館で行われる事業は、二つある、絵画教室それと音楽アカデミー、絵画教室は、いろいろ絵を作ることだと思うんですが、音楽アカデミーは、今年で9年目をむかえる、長い

間やっているんだなと思いますが、先程の昨年度の内容の報告によると、あまり受講者がいない。アートビレッジ文化館と称している割には2分野しかない。少なくとも、この二つに興味がある人は行くが、興味のある人は少ない。最近、新聞で報道になっている伊達高出身の映画監督の映画であるとか、演劇であるとか、芸術の範囲は広いので、他のアートの分野もぜひ授業の中に加えていただきたいと思います。

■部会長

関連してありますか。

今その絵画、音楽だけでなく、もう少しあってもいいのではないかという一つの意見だったんですが、こちらへも提言書の方に載せる方向で考えておいてよろしいでしょうか。

□委員

芸術の話出たのですが、やってみたいなという子供たちを取り込むというのはないのでしょうか。小学校、中学校、高校生とか、前やりませんかという広告があって、何人かは行ったとは思うんですね、野田画伯のあれに。じゃなくて、もうちょっと絵をやってみたいなというそういうのを、夏休みとか冬休みとかを利用して、短期間でいいので、何日間かそこに通うというような子供たちを育てあげるというのはどうですか。

■部会長

前やってなかったですか。

●事務局

アートビレッジの方は、事務を委託してるんですが、アートビレッジの先生方の考えかたの中に、ちょっとハイレベルなところがありまして、子供が親しむところは、どちらかというは今市の方で直接やってるという現状です。次回の青少年の分野の時に載ってくるんですが、今年も絵の関係をやるようなことを考えております。ただ、仰ってることももちろんですから、提言のほうに載せてもいいかなと思います。

■部会長

委員が言っているのは、もう少し分野を広げて、もっとここの子供たちからも何日間か、何回かやってみたいという。

●事務局

子供は別に受け入れていないわけじゃないんですが、そこまでハイレベルじゃなくてもということをお願いしたいですね。

□委員

学校の高校だったら、クラブでやってる先生方をちょっと取り込んで、カルチャーセンターでもいいので、初歩をちょっと頭に入れると、何年後かにはそういう方面にいく場合も、で戻ってきてそういう方面にボランティアで参加する場合もあるので、下の方を取り込んでいけたらいいなと思います。

□委員

芸術に関してですが、その芸術をやる人はほんのひとにぎりです、大多数の人はそれを聞いたり、鑑賞したりするわけです。芸術の意義は、そのすばらしい作品に感動することで、鑑賞のしかたを教えることも芸術活動だと思うんです。例えば、伊達にも、全道展の移動展が来ます、いくつかの作品を展示して、何日間か展示するのですが、そのうちの1日～2日間、解説をしてくれます、あの解説というのは、非常にためになる、ぜひ、このアートビレッジもですね、一握りの芸術

をやる人のためではなくて、そういう鑑賞をする大多数の鑑賞する人のためになることもやって頂きたいと思います。

■部会長

今のようなことも大切なことだと思うので、提言書のほうに盛り込む方向で考えたほうがいいですね。他どうでしょうか・

□委員

いろんな意見もあると思うのですが、ただ一方で、野田先生の人脈でいろいろ面白い人が伊達に来てるといふのがあります。この間も、ノーベル化学賞受賞者が伊達に来ると、そういう人がやっぱり伊達に来てると、やはりそういうつながりもあるのだなと思います、一方でやはり大多数の市民にとってという部分が今現在の意見なのかなというところは承知しております。で確認だったんですが、アートビレッジそのものに関して、これは教育委員会として、ここに人を呼びたいのか、ここはあくまで、中心というか事務局で、実際の事業自体はカルチャーセンターなどで行うと、そういう発想なのかをお伺いしたいと思います。

●事務局

難しいですね、ただ、あそこはハイレベルなところだと、で、やっぱり、こんな小さな町が今後生き残っていくためには、例えば他の町と比べて光ってる部分だとか、そういうのがなかったらだめだから、やっぱりあそこは他に勝てる部分というのかと、で、そういうことからすると、あそこに人が来て下さいというのは、あまり申し上げにくいですね、で、むしろ、人が来て下さいということになると、現実的にあそこの駐車場の問題とか、中の構造的な問題がありますが、そういうことは、カルチャーなり新しくできるミュージアムの方でやっていけばいいのかなというところですよ。

□委員

わかりました。

ただ、建替えなり修繕なりしてお金を掛けるので、市民にも開けたところだといふなと思っております。

歴史の杜、カルチャーセンターなんか非常にうまく人が来てるとし、回ってるなと思うのは、やっぱり、ある程度施設がかたまらないと、

あるいはその単体の魅力だけで動員は難しいなというのが正直思いますので、例えば、周辺も含めて整備をするということも考えられるのかなと思います。

■委員

音楽アカデミーなのですが、去年の人数も少なく、これは学校関係にも、広報にも、新聞にも、一応、参加者は募っているんですがそれでもなかなか来ない。、今回は、私もちょっとこれでは人数も足りないかなといういろいろ呼びかけて、この倍の人数も参加してくれることになって、伊達の生徒、子供、小学生も、伊達の高校生も、それから遠くからも来られる方もいますが、伊達の大人の方も増えて、12名、これ以上はちょっと一人で先生がレッスンするのは、無理なので、今まで過去に、ここの生徒さんが、東京の音楽大学へ行って、学んでいる方もいますし、ちょっとずつは進んでいると思のですが、何万人の人口の伊達市のことを思うと、本当に微々たるものだと思うのですが、あの先程、委員が仰った一握りの人のためではなく、もっとたくさんの人にいろんな、例えば芸術とかを伝えていけたらいいというの、ハイレベルというのではなく、去年のコンサートもピアノとバイオリンとビオラだったのですが、いろんな説明もしながら、ビオラとバイオリンの違いとか、あとクラシックだけでない曲も弾いてくださったりとか、ちょっとずつは、私たちも、もう少し広げようと。で、野田先生や永山先生のいろんな思いもあるのしょうから、それはそれとして、私たちが、理事っていうか、ボランティアではないですけども、それこそ10年先を見据えて、どのようにして、

もう少しこれを広げていったらいいとか、今考えているところです。
もう少し、野田先生、永山先生はその先生で、他のいる職員とか、職員というか、いる人たちが、私たち理事が、別の意味で、みなさんに還元できることはないかということ、今考えているところです。
個人レッスンなので、一人につかえるというか、一人でやるっていう時間は、なかなかこれ以上はできないことなので、違った意味で、またなにかできることはないのか、協力できることはないのかっていうのを今考えているところです。

■部会長

基本的にはこういうことなんだ。
受講する人と、それをまた聞きにいてもいいですよっていうスタイルですね。

●事務局

基本的には、公開レッスンなので、公開レッスンを見ることで、このように教えてる、このような音楽表現するっていうのを、見てるほうも、それを見ることによって、本来は、それを見てる、聞いているほうも、レッスンになるっていうものではあるんですけど。一応、広報周知はしてるのですが、このレッスンっていう自体が、なかなか広まっていないっていうのもあって、なかなかお客さんも来ていないと思うし、これが広まってくれば、レッスン方式っていうのは、広まってくれば、もうちょっと人が来るのかなとは思っているのですが。

■部会長

今度はあんまりジャンルにこだわらなくて結構ですので、このことはいいたいとかいうのはありませんか。

□委員

宮尾登美子文化記念館ですか、別なことに建物を使うのであれば、早いにこしたことはないと思ってますので、市単独でやるのであれば、金がないから、おそらく、検討委員会みたいなのをつくってやることになるんでしょうが、そういう取組は早急にやっていただきたいと思っています。

■部会長

今の意見やなんかも含めて、また、提言書のほうに、なんらかの形で入れる形で、他の施設やなんかも関連させて、述べていくっていうことでよろしいですね。
他ございませんか。

□委員

歴史の杜に今施設がいくつかあって、いまだれも、カルチャーセンターも、総合体育館も、まあ道の駅も、集客うまくいってるのかなと思うのですが、で、そうだと次は駐車場の話なのかなというところでお伺いしたかったんですが。
日によって、全然足りてたり、足りてなかったりしてるんですけど、わりと行くと、駐車場をさがしてうろうろするようなどころがありまして、そのあたり、伊達市としては、教育委員会としてはどうでしょうか。

●事務局

駐車場の話、現実問題、あれだけの施設を集約して、なにかイベントがあると足りないということですが、これ管轄的には都市計画の部分になりますが、ただ、市としても、その課題があることは分かっておりますが、今、現状の法律の中ですとか、財政的なものとか、いろいろ含めまして、なかなか簡単に、解決できる問題ではありません。

□委員

じゃ、長いスパンで、考えてるんですか。

●事務局

物理的には難しいですね。

□委員

あそこ、立体駐車場にはならないのですか。
そしたら、2倍入るから。

●事務局

立体駐車場、そうなった場合、無料とはならないと思います。おそらく、市が収益事業として、それをやるっていうのは、現実的には難しいのではないかと思います。ただ、提言書ですから、施設集約して造るのはいいけれども、そこもしっかり考えろということは、言っていてかまいません

□委員

大きなバスとか、子供たちを降ろしたら、違うバスのところに停めるというのはどうですか。

●事務局

バスであれば、市役所のほうへ行って下さいっていう形になると思います。

□委員

スペースがあるところを、買い取ることはできないですか。

●事務局

冬だと、ここ空いてますよといっても、除雪してないんじゃないかという話になるので、トータル面で間違いなく停めれるところとなると、抜本的に考えなければいけないのです。

□委員

市営住宅の跡地っていうのはどうですか。

●事務局

今は、使ってませんね、ただ、じゃ、停めていいよといっても、誰除雪するんだっていう話になりますので、ちゃんと、駐車場として提供するためには、季節をとわず、除雪をしたうえでないと、駐車場としては認められないと思いますので、その辺については、提言書の方に、駐車場の対策も考えなさいよということは、いれていただいてよろしいかと思います。

■部会長

あと、他にないですか。

□委員

北黄金貝塚の駐車車が狭いという話をよく聞くんですが、同じような状況ですか。

●事務局

修学旅行シーズンにバスが来て、一時的にピークの時は確かに大変かもしれませんが、その対策のためだけに新たな土地に駐車場を造るというのは難しいと思います。

■部会長

今イメージとして、カルチャーセンター、それから体育館、プールやなんかいろいろできて、図書館もあります。こういう社会教育施設がいい意味で固まってい

るんですよね、伊達はね。まあ駐車場の問題もありますが。
大滝とか、有珠だとか、長和だとか、稀府、黄金、そちらの方の、なんか社会教育っていうか、文化だとか、スポーツとか、市街地ばかりでなくて、他のところはどうか。

□委員

大滝に関しては、どちらかというと、スポーツ施設があって、例えば、白老であるとか、札幌であるとか、アクセスするには、実は大滝のほうが楽だということで、大滝のスポーツ施設でサッカーの大会をやりましたが、割とそういう意味で、いろんなことが、なれると、案外使いやすいだなど、思いまして、市街地に住んでると、やっぱり、なかなか使いづらいけれども、ある意味、逆に、伊達から離れてることをうまく利用すれば、また新しい展開があるのかなと、思いました。

■部会長

これは、この次の回に、スポーツだとか、青少年の関わりが出てくると思いますが、西胆振定住自立圏文化、こういうようなかたちでもあるし、それから、伊達市でいえば、壮瞥などでもやっていますが、そういう連携っていうのはどうなんですか。

●事務局

よその町との調整はしてないですね。

■部会長

その他、全体的になにかございますか。
最後の方に、その他ということですが、みなさんの方からありませんか。どうでしょうか。もしなければ、事務局の方からありませんか。

●事務局

それでは次回の会議ですが、9月26日、この場所で、テーマは、青少年と体育という形になります。
ということで、よろしくお願ひしたいと思ひます。

■部会長

今回は、9月26日だということで、しめてよろしいでしょうか。
今日の会はこれで閉じたいと思ひます。
ありがとうございました。

閉会